

JS

月刊

老施協

5

vol.463
May 2010

座談会 「収支状況等調査」について

毎年度続いているからこそ 悉皆調査であるからこそ 制度改正へのエビデンスが得られる

平成22年度 施設ケアマネジャー研修会

『命の質・暮らしの質・人生の質』を高めるために
～専門性を持って施設ケア現場の課題に取り組む～

連載 100歳のわたしへ ● 武田双雲さん

感謝することを心がけていると
自然にエネルギーが湧いてくる

栃木県全国老施協会会員研修会

いま、まさに社福法人の実行力が問われる！
「処遇改善」と「高品質サービスの提供」に向けて



エコプロジェクト 委員会を発足

「みどりの園」は、鹿児島県鹿屋市輝北町にある。輝北町の人口は、約4,000名、高齢化率39%の過疎山間地で、少子高齢化の進んだ地域だ。同施設の近くには美しい鹿児島湾（錦江湾）と桜島を眺望できる輝北上場公園があり、園内には全国でも有数の天体望遠鏡が設置されている輝北天球館が建つ。宇宙をイメージしたユニークな外観の天文台で、1991年から4年連続日本一星空が美しい場所になったのを記念して95年に建てられた。

また、上場公園には、輝北ウィンドファームという大型風力発電施設が16基設置され、錦江湾から吹き上げる風により、クリーンな電気エネルギーがつくられている。九州地区最大規模の出力を誇り、一般家庭の約1万2,000世帯分に相当するとい

う。このような周辺の素晴らしい環境に触発されるかのように、同施設では、介護・福祉業界でも企業責任としてエコ活動に取り組む必要があると考え、2008年6月にエコプロジェクト委員会を発足。身近で、無理なく負担なく始められるエコ活動から取り組んでいくことになった。

エコパトロールと エコキャップ運動

09年からの活動は、毎月の委員会を開催し、エコパトロールを行っている。また、グループウェアによるエコ活動情報を回覧、全体会議での活動実績報告等により法人内での情報共有を図るようになった。

特に、エコ委員が毎月実施するエコパトロールは、各部署を訪問しスタッ



連載

施設レポート

社会福祉法人絨徳会
介護老人福祉施設「みどりの園」
(鹿児島県鹿屋市輝北町)

Vol. 2

職員一人ひとりの身近な活動から 地域・社会に貢献できるエコ活動へ

介護老人福祉施設「みどりの園」は、2008年（平成20）年にエコプロジェクト委員会を発足、身近なエコ活動からスタートした。現在では、経営に有効なエコ活動を目指して、経営効率のアップ、さらには地域・社会貢献ができ、社会的な信用と地域の信頼獲得につながることを目的として、積極的に取り組んでいる。また、2003年には、ISO9001認証を取得した。今号では、介護老人福祉施設の最先端エコ活動の実際をお届けする。

フに質問してチェック表に記入する形式で行う。質問項目には、マイハンカチ活動の推進や、ペットボトルキャップの収集活動、水道の状況、電気の使用状況、N・OFF状況、コピー用紙の再利用などがある。このほかには、送迎車両のアイドリング停止、車両の適正な点検整備などにも気を配るなどの項目もある。身近なエコ活動に継続して取り組めるようにエコパトロールを実施することで、職員の意識も向上していった。部署によって気をつけて取り組んでいる内容がチェック表を見れば一日でわかり、また今後気をつけて取り組むべき問題点も明らかになっていった。

エコプロジェクト委員会の取り組みの一つとして、職員に呼びかけてペットボトルのキャップを回収し「エコキャップ運動」を行っている。この運動はCO₂削減に貢献し、世界の子どもの命を救うことを目的としており、ペットボトルのキャップは、リサイクル業者によって、4000個が10円で引き取られる。ポリオワクチンは1人分20円。つまり、キャップを8000個回収すれば一人の命を救うことができるのだ。一方、キャップをゴミとして焼却処分すると、4000個で3、150グラムのCO₂が発生するといわれている。

現在、1万3、000個ほどになっているから、16人の子どもの命を救えることになる。キャップを再利用することで子どもの命を救い、地球温暖化防止にも役立つわけだ。

デマンド監視による電気料金の削減

同施設では、05年に1年間の電気量が前年に比べて大幅に上昇したため、その原因を究明したところ、基本料金の上昇によるものだった。対応策を検討した結果、電気料金の削減にはデマンド値（過去12か月の最大需要電力の最大値）を下げることで効果的かつ効果的だとわかり、「デマンド監視装置システム」の導入を決定。すでに06年からデマンドコントロールによる電気料金の削減に取り組んでいる。

事務所の壁に設置された同システムの制御盤は、24時間デマンド値を計測し、目標とする最大デマンド値を超えそうになるとプザーやランプで知らせてくれる。そのような時は、使用電力

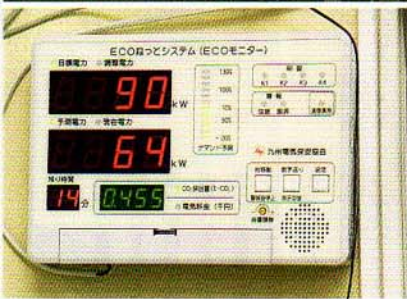
の高い装置から電力を落とすとしていくなどして、効率的に目標最大デマンド値を超えないようにコントロールする。こうした活動により、契約電力は05年133kWから06年100・58kWに削減することができた。これは、金額に換算すると約76万円の削減になる。電気料金の削減につながったほか、省エネ法、ISO14001に求められる電力管理を実現するなど、取り組みの成果は大きい。

ソーラーエコ給湯システムを導入

09年には、より大きなエコプロジェクトが始動した。吉元和浩理事長の発案により法人自身が地球温暖化防止、CO₂の排出削減に寄与するため、太陽熱を利用したソーラーエコ給湯システムの設備導入を計画。補助金の認可を得て、9月に工事着工、10月末に完成し稼働を開始した。

太陽熱を利用した給湯システムは、まず屋上に設置した太陽熱の集熱器で熱を集めて熱エネルギーに変え、そのエネルギーで集熱媒体の不凍液を温める。この不凍液をポンプにより循環させ熱交換器により熱交換する。熱交換器により温められたお湯を貯湯槽に貯めてお湯を供給するというシステムだ。太陽熱を利用したエコ給湯器は、主として安い夜間電力を利用して不足の熱量を補い、太陽熱が不足するとセンサーが働いて既設のLPGボイラーが追い炊きをする仕組みになっている。

システム導入前の試算によれば、従来のLPガス方式と今回導入したソーラーシステムを比較すると、ソーラーシステムはインシヤルコストでは1365万円多くかかるが、ランニングコストで年間257万円少なくなるため、おおよそ5年で元が取れる。また、クリーンエネルギーの太陽熱を利用することで、従前の設備方式に比べ



上：太陽熱集熱器
中：熱交換器と貯湯槽とボイラー
下：監視システム



上：浜田博氏
中：野村幸史氏
下：宮本重雄氏

LPガスを年間約21万㎡削減、CO₂排出量年間約61t削減の効果が期待できる。実際に昨年11月～今年3月まで5か月間のボイラーのガス使用量をみると、前年同期比71%減と大幅に削減することができた。

「自然エネルギーを使うことで、固定費が抑えられるので、そのぶん別のところに使え、介護職員の配置を厚くするなどサービスに費用を分配できます。コスト削減につながるのです。こうした制度を福祉施設や病院で活用すればCO₂の排出削減に大きな効果がある。私たちの事例をもとに他施設の方が設置されることでまた効果が出てくると、事務管理室統括ISO管理室室長の浜田博氏は話す。

また、経理部長の野村幸史氏は、「買い替えるの時期を迎えている事業所があるかと思いますが、もしそうであれば補助金を積極的に活用して、導入を検討されてはいかがでしょう。この仕組みは化石燃料を消費せず、太陽熱という自然エネルギーを使います。良い製品があるので良いものは使って、社会貢

献を積極的にやっていくべきだと思います」と語る。

地熱を利用した室内換気

同敷地内にあり、08年9月に開設したグループホーム「コーポラスいちなの郷」は、地熱を利用した換気システム「GEOパワーステム」を導入した。屋外の空気を、地下に埋めたパイプを通して室内へ供給する。地中は屋外に比べ温度変化が小さくほぼ一定で、夏は涼しく冬は暖かい空気に変えることができる。さらに冷暖房費を大幅に削減できる。

ホームの窓には風船かづらなどのツル性植物でつくった「グリーンカーテン（緑のカーテン）」がある。夏には日差しをさえぎり室内の温度上昇を和らげてくれる効果がある。ガーデニングを楽しみながらCO₂削減にも貢献できる「緑のカーテン」は、手軽に始められるエコアクションのひとつだ。

グループホームに隣接する野菜畑では、芋、ナス、ピーマン、キュウリ、玉ねぎなどが栽培される。また自給自

足には少し足りないものの、ご利用者のリハビリを兼ねて職員が畑づくりを行っている。この畑では、ご利用者と地域の保育園児の合同の芋掘り大会などが行われ、地域交流にも役立っている。ホームにはご利用者の皆さんの気者であるトカラヤギのメリーちゃんやギのメリーちゃんが飼われている。メリーちゃんも、ご利用者の皆さんと共にエコな暮らしを楽しんでいるかのよう

だ。「コーポラスいちなの郷」のリーダー、宮本重雄氏は、エコプロジェクト委員会委員長を務める。宮本委員長は、20代のときネパールでレストランの料理長をしながら3年間暮らしたユニークな経験を持つ。物はな

いが、自給自足の生活を送るネパールの人たちの姿をつぶさに見てきた。質素だが創造性豊かなエコライフそのものといえるような暮らしが、今も懐かしく思い出されるという。

「エコ活動は一人の力ではできません。みんなで力を合わせて取り組んでいくことが重要です。都会にはないこの良さを生かしながらやっていくのがいちばん良いと思っています。これから地域の人巻き込みながら自然環境保全と地域の清掃作業を月1回でも一緒にできるようにしたいですね。



上：外気を地下に送るパイプ
下：青色回転灯を装備した送迎車



室内の温（冷）風噴出口

環境を保護しながら次世代の人たちに
つないでいこうというのは良いことだ
から、仕事に対しても人間としても勉
強して無駄ではない。自分さえ良けれ
ばというのではない。それはボラン
ティア、社会福祉の考え方にもつま
がっていくと思います」と宮本さんは
話す。

地域の安全を守る 「輝北町ぐるみ見守り隊」

デイサービス・通所リハビリなどの
送迎で地域全体をまわる特性を生かし
て「地域の安全・見守り活動ができな
いか」と職員が提案。法人のミッション
の一つ「老人福祉事業を通して社会貢
献することにより輝北町における幸福
な生活を創造する」に沿った考え方で
あり、この活動が地域貢献につながる
と考え、法人全体で取り組んでもいる。
09年4月に防犯ボランティア団体と
して「輝北町ぐるみ見守り隊」が、地
域との絆を大切に、安全で安心して
暮らせる地域づくりのため防犯パト
ロールを行うことを目的に発足。同年
6月には職員11人による自主防犯見回
り組織の「青色防犯パトロール隊（略
称「青パト隊」）が結成された。
具体的な活動としては、青色回転灯
を装備した7台の青パトで、毎日の利
用者の送迎がてら地区内を巡回する。
また、毎月、地域の駐在所やスクール

ガード、交通安全協会の人たちと合同
で巡回パトロールを行うほか、ロード
ミラーを清掃したり、交通安全の看板
を作成し、設置したりしている。

「ご利用者の送迎時に青色回転灯を
つけて走ることによって、わざわざの
仕事ではなく、日常の業務の中で自然
にできるので、どの施設でも地域の防
犯活動を当たり前に行うことができま
す。地域の方々にも喜ばれているので、
これからも気を引き締めてパトロール
に励みたい」と青パト隊副隊長を務め
る介護支援専門員の丸田尚永氏は話す。
車両が地域をまわることで、犯罪者に
対しての抑止力になっていることは確
かだ。また、職員も青パトを運転する
ことで常にまわりから見られていると
いう意識を持ち、運転マナーの向上に
つながる。さらに、地域の住民、高齢者
子どもたちも安心して生活を送ること
ができるなどの成果を上げ、地域貢献
に大きな役割を果たしている。今日も
「輝北町ぐるみ見守り隊」は、地域の
安全を守るため輝北町を走りまわって
いる。

地域に根差した施設、 人が育つ環境づくり

99（平成11）年に「みどりの園」の
近くに、みどり診療所が開設された。
これにより、医療と福祉の連携による
サービス提供ができるようになり、利
用者も家族も安心して過ごし、スタッ
フも安心して働ける環境が整った。
「地域に根差した施設になることが
大事だと思います。また人が育つ環境
をできるだけつくっていききたい。「あ
そこ働くんは優秀な人だ」と言われ
るような施設になりたいし、できれば
「日本一良い施設だよ」と言われるよ
うにもなりたい。次の時代につなぐた
めに、人材育成は大事だし、次代を担
う人にきちんとパトナタッチしたい。
先代の理事長が「いのちいっぱい自
分の花を咲かせて」と言ったように、
安らかで安心して楽しく最期まで、終
末期を迎えられるような施設にできた
らと思っています。みんなで力を合わ
せて夢ではなくて現実にしていきた
い」と施設長の古元みどり氏は語る。

一方、施設長と二人三脚で施設のか
じ取りを行い、さらに人材教育を担当
する副施設長の金田千代子氏は次のよ
うに話す。

「私は居宅のほうにも出ていて、そ
こで感じるのは、この4、000人規
模の町は独居、夫婦高齢の世帯が多い
ということ。また、子どもさんの
いる家庭でも、何かあったときに急に
帰って来られないようなところもあり
ます。なかにはここがあるから生活が
どうにかできているという人たちもい
らっしゃる。だから、地域の人が「み
どりの園があるから安心だ」と言っ
てくださるような地域福祉の拠点でな
ければいけないと思っています。」
同施設が展開するエコ活動や地域の
安全を守る活動に共通するのは、地域
に密着したCSR（地域貢献）活動の
取り組みだといえる。CSRとは、企
業経営の根本において企業の自発的行
動として企業自らの持続性を実現し、
また、持続可能な未来を地域社会と共
に築いていく活動のことだ。さらに、
今年6月には、ISO10002（苦
情対応マネジメントシステム）の認証
を取得する予定だ。取得すれば、高齢
者福祉施設では日本初となる。社会福
祉法人が果たすべき使命（ミッション）
と、そのために取り組むべき業務の方
向性（ビジョン）を明確にすることを
追求している。



上：古元みどり氏
下：金田千代子氏